

サバーソニック・アジロック イベント視察

令和3年3月12日

- 日時：令和3年3月8日（月）
- 場所：伊東市川奈
- 参加者：約20名前後（御前崎渚の交番…増田参加）

3月8日（月）、伊東市を活動拠点とされてるサバーソニック・アジロックフェスティバル実行委員会によるプラスチックリサイクルマシンお披露目会のイベントが実施され、視察でお邪魔した。今回のイベントはクラウドファンディングで資金を集め、その資金で作成したプラスチックリサイクルマシンのお披露目でビーチクリーンをしながらそのマシンを体験し、その後、サバ定食を食べる（3月8日…サバの日）というものだった。

まずは主催者代表の武智氏があいさつし、体験時の密をさけるため、かわるがわるでビーチクリーンをしつつ、時間がきたらマシン体験、全員が終了したら食事という流れで半日のプログラムだった。

参加者は関東圏からの方が多く、本来、コロナ禍でなければ実施されるはずのフェスティバルのファンの方々が多かった様子。

ビーチクリーンは伊東市川奈のビーチが細かな砂利浜だったため、漂着ゴミはあったものの、砂まみれにはなっておらず、御前崎に比べきれいな状態で回収できた。しかし、リサイクルするとなると融点の違いからどんなものでも一緒にできるわけではなく、結果、ペットボトルのキャップ（それも劣化が少なくきれいなもの）のみがマシンでリサイクルできるということだった。

代表の武智さんに伺うと、このマシンで伝えたいのは、「結局プラゴミのリサイクルには限界があり、汚れてしまったものはリサイクルが効きにくい、”だからプラゴミを出さないようにし、使うのも控えていこう”という方向で情報発信をしていきたいとのことだった。

御前崎においても市民団体のみなさんの盛り上がりにより、頻繁にビーチクリーンが行われるようになってきたが、ゴミ処理の問題やマイクロプラスチック問題、そしてプラスチック製品のリデュース（使用減）などについても知識、情報の共有をしていかなければならないと感じた。渚の交番としても、こういった情報発信（SDG's推進を含めて）をしていかなければならないと改めて認識させられたイベント視察だった。

